

竹内和順議員



● 子育て支援について
● 勝山の産業振興策について

そのほかの質問
・健康格差社会への対応について
・U・Iターン策について

一般質問

問 勝山市が、子育て支援日本一の実現に向けて、子ども・子育て支援事業計画をたてている。地域子育て支援センターは、これまでに転々としてきて、現在の市民交流センター内の2階に設置しているが、使い勝手や印象が今一つ。今後移動する予定があるか。利用促進活用方法についても伺う。
答 子育て支援センターは、平成22年8月に現在の建物に移転。当分の間、移転の予定はない。遊具など年令にあわせて遊べるよう環境を整えて子育てに関する講座を行事に組み入れ、育児不安の解消を図っている。育児について相談窓口として、気軽に安心して訪れることができる施設でありたいと考えている。子ども達だけでなく、親もリフレッシュできる場、安心して遊べる場としてより充実した環境を提供し、今後も勝山市の子育ての拠点としてさまざまな事業を進めていきたい。

問 産業フェアについて伺う。市内企業を広く市民の方に紹介し、特に若い方へとの説明になっている。どのように市民・県民の方に周知しているのか。来場者数や反響はどうなのか。イベントというものは、周知と満足度が大事と考えるが市の見解を伺う。
答 勝山産業フェアは、勝山商工会議所の主催で平成21年に始めた。市内の企業が持つている優れた技術や製品を知ってもらおう「情報発信」の場として、越前大仏もんぜん市や歯みがきロボットコンテストとの同時開催により、多くの方々に来場していただいていたが、今年度は、歯みがきロボットコンテストの終了や、台風21号のため、昨年度より大幅に来場者数が減った。平成30年度は会場をジョアアリーナに移して開催する。多くの企業の参加を呼びかけ、企業の紹介と情報発信を充実させ、飲食コーナーなどの設置や、アトラクションを行い、勝山市の産業を市内外の方々に、力強く発信する場となることを目指す。

吉田清隆議員



● 水不足解消に向けた取り組みについて
● 勝山市の公共施設等総合管理計画について

そのほかの質問
・PCBの保管・処理について

一般質問

問 昨年と今年の冬の断水は、市民の方々に多大なご迷惑とご不便をおかけし、同時に勝山のイメージを落とすと思う。全国の上水道の平均的な有収率は約87%だが、勝山市の場合は78%であり厳しい状況。早急な漏水に対する更新・改修が必要。
水不足対策として、水道蛇口の節水コマや、中学校の手洗い場へ人感センサーを装備する、または、浄土寺川ダムの利用や新たな井戸の掘削も検討してほしい。市の考えを伺う。
答 平成30年度は市街地全域を対象としての漏水調査費を予算計上し、漏水の早期発見、修繕により有収率の向上に努める。水道蛇口の節水コマの活用や、手洗い場の人感センサーの設置については、関係課とも協議し、その効果の検証を行い、導入についての検討をする。新たな井戸の掘削、浄土寺川ダムからの取水は単年度で対応できるものではなく、実用までには複数年の期間が必要となるが、早期に検討を進め、必要な経費について議会に諮りたい。

問 昨年の「第79回全国都市問題会議」の講演で、人口減少を食い止めるための本当の処方方は、人口減に財政難でも可能な持続的なインフラ・サービスの実現すること、人口とインフラの適正規模、適正配置が現在の最重要課題とのこと。日本では1970年代がインフラ投資のピークで、2020〜2030年代に改修のピークを迎える。
勝山市は、勝山市公共施設等総合管理計画を策定しているが、インフラ整備の対策と重要性について考えを伺う。
答 公共施設等総合管理計画ではインフラ施設について、市民生活の基盤を支える重要施設であることから、今後も総量を維持するという考えで、全体の更新経費を算出している。改修工事の財源としては、公共施設等適正管理推進事業債を充てており、道路構造物をはじめ河川管理施設、治山施設や農道なども対象となることから、これらの財源を有効に活用して、適切にインフラ施設の更新を図り、機能維持に努める。